

2023年度以降入学生用 常磐大学 人間科学部 現代社会学科 履修系統図(図形式)【ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーと各授業科目の対応関係】

建学の精神 実学を重んじ真摯な態度を身につけた人間を育てる。

教育理念 自立・創造・真摯

学科の教育研究上の目的 (1)社会的な観点から、人間が生きる世界の仕組みや人々が幸せに生きることができる仕組みを学び、変動する現代社会の中で生き抜く力を備え、福祉社会を創造することのできる人材を養成する。
(2)実証性を重視し、常に現実の中から問題を発見し、その解決および改善を考えていくことができる能力を修得させるための教育研究を行う。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (教育課程編成・実施の方針、カリキュラム・ポリシー)		授業科目				卒業の認定に関する方針 (卒業認定・学位授与の方針、ディプロマ・ポリシー)	
(1)編成方針 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)で掲げた人材養成の目的を達成するために、知識の修得という側面だけでなく、実証的な研究方法の修得や社会や地域との関わりを重視し、変化し続ける現代社会を総合的に捉えることのできる能力の涵養を目指したカリキュラムを体系的に編成します。		1年次	2年次	3年次	4年次	現代社会を構成する様々な人間と社会を幅広く理解した上で社会現象を総合的に認識することができ、人間科学と社会科学の視点を活かしながら、倫理観に基づく健全な批判精神を発揮して同時代の問題に主体的に取り組み福祉社会を創造することができる人材を養成します。	
(2) 実施方針	(1) 全学共通科目、学部共通科目では、大学で学ぶための基本的知識と態度、技能を身につけるための教育を行います。	学びの技法Ⅰ・Ⅱ 統計の基礎 情報処理Ⅰ・Ⅱ キャリア形成と大学 社会調査入門 英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	英語Ⅴ、Ⅵ	人間科学概論		学士の学位授与	<p>1. 様々な社会についての歴史的・文化的な理解ができ、異文化や「他者」への想像力を伴った、21世紀に生きる人間に求められる相対的なものの見方を身に付けている。また、関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについての認識を深めることができる。(知識・理解)</p> <p>2. 現代社会の諸現象と変化を捉えるための情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる。(思考・判断)</p> <p>3. 現代社会の諸問題への関心を深め、それらに取り組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身に付けている。(態度)</p> <p>4. 現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考えることができる。(技能、知識・理解、思考・判断、態度)</p>
	(2) 学科基本科目では、学科の学修の導入科目「現代社会論」によって現代社会の諸相を社会的視点から俯瞰的に教授し、現代社会と社会学の基礎的理解を図ります。また、「社会学概論Ⅰ・Ⅱ」「社会学史」などの基礎社会学に係る講義科目および「社会学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「社会学応用演習」などの演習科目を通して、社会学を学ぶ上で要される基礎的知識と社会的思考を段階的に習得する教育を展開します。	現代社会論 社会学概論Ⅰ 社会学研究法 社会学基礎演習Ⅰ 社会学基礎演習Ⅱ	社会学概論Ⅱ 社会学応用演習	社会学史			
	(3) 学科専門科目の「方法論・データサイエンス領域」では、社会調査や社会統計学を基盤として社会学の方法論に関する能力の涵養を図ります。現代社会の諸現象と変化を捉えるための情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解く力を身につけるために、「社会調査法Ⅰ・Ⅱ」「社会調査法演習」「データサイエンス概論」「データサイエンス各論A・B」などの授業を通して、実証性を重視した実践的な社会調査教育およびデータサイエンス教育を展開します。	社会調査法Ⅰ	社会調査法Ⅱ 社会調査法演習 社会統計学 データサイエンス概論 データサイエンス各論A データサイエンス各論B 地理学特論A 地理学特論B 地理学特論C	量的データの扱い方 質的データの扱い方 社会調査実習 データ分析演習			
	(4) 学科専門科目の「家族・福祉社会領域」では、人間の生活の基礎を支える集団や制度に関する理解を図るため、「家族社会学」「産業・労働社会学」「社会保障」などの応用社会学や社会福祉学の科目群を設置し、自己の生きる社会の基礎的構造についての理解を深める教育を展開します。	家族社会学 産業・労働社会学	保健・医療社会学 ライフコースの社会学 社会福祉の原理と政策 社会保障 児童・家庭福祉 高齢者福祉 ソーシャルワークの理論と方法 民事法	消費社会学 家族・福祉社会特講			
	(5) 学科専門科目の「公共・地域社会領域」では、人間が他者と共存するために構築する公共性と共同空間としての地域社会の特性を理解するために、「地域社会学」「都市社会学」「農村社会学」「地域研究特講」「公共性の社会学」「テクノロジーの社会学」などの科目群を設置し、現代社会の諸相を公共性から再考し、問題意識の深化を促す教育を展開します。	地域社会学	都市社会学 農村社会学 国際社会学 公共性の社会学 環境社会学 犯罪社会学 刑事法 交通地理学	エスニシティの社会学 テクノロジーの社会学 災害社会学 地域研究特講			
	(6) 学科専門科目の「文化研究領域」では、「文化」の視点から現代社会を多面的に捉え、現代社会の多様性とそれへの対応について理解を深める教育を展開します。「文化社会学」「宗教社会学」などの応用社会学のみならず、「社会人類学」「民俗学」「都市地理学」「社会学史」などの社会学関連科目も積極的に科目群に取り入れ、学問横断的に社会と文化についての学修を深めます。	文化社会学	宗教社会学 社会人類学 スポーツ社会学 スポーツ人類学 都市地理学 村落地理学 社会学史 民俗学	スポーツ社会学演習 文化研究特講			
	(7) 関連科目には、「法律学(国際法を含む)」「政治学(国際政治を含む)」「経済学(国際経済を含む)」「哲学概論」「倫理学概論」「人文地理学Ⅰ」「自然地理学Ⅰ」	法律学(国際法を含む) 政治学(国際政治を含む) 経済学(国際経済を含む) 哲学概論 倫理学概論 人文地理学Ⅰ 自然地理学Ⅰ					
	(8) 卒業研究のうち「ゼミナールⅠ・Ⅱ」では、自分の専門領域について理解を深め、現代社会の課題を多角的に見出し得るために、共同作業を取り入れた教育を行います。また、4年間の学びの集大成である「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」では、社会現象、現代社会の課題を多角的に見出すとともに、その課題の改善、解決の方策を考える力を身につけるために、集団討論を積極的に取り入れた教育を展開します。			ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ	卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ		

常盤大学 人間科学部 学部共通科目 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1.人文科学、社会科学、自然科学の諸領域にわたる広く深い教養と基礎的な知識を身につけ、各学科の専門性および人間科学の枠組みで総合的に理解している。(知識・理解)	2.人間に関わる諸問題、とりわけ、心理や行動の発達、教育、社会や福祉、コミュニケーション、健康と栄養に関わる諸問題を発見し、批判的に考え、多面的な思考と分析による確かな判断を下すことができる。(思考・判断)	3.人間科学に基づく高い倫理観をもち、自らの社会的責任を理解し、自らが率先して行動する態度を身につけている。(態度)	4.各学科の専門性に基づく高度な専門的知識と応用実践能力を修得し、課題解決のための具体的な方策を提示し、これを実行できる技能を身につけており、それによって社会に貢献することができる。(知識・理解、思考・判断、技能)	<SDGsの17のゴールとの関連> 概論:SDGsの概念や考え方を学ぶ ①:貧困をなくそう ②:飢餓をゼロに ③:すべての人に健康と福祉を ④:質の高い教育をみんなに ⑤:ジェンダー平等を実現しよう ⑥:安全な水とトイレを世界中に ⑦:エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧:働きがいも経済成長も ⑨:産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩:人や国の不平等をなくそう ⑪:住み続けられるまちづくりを ⑫:つくる責任つかう責任 ⑬:気候変動に具体的な対策を ⑭:海の豊かさを守ろう ⑮:陸の豊かさを守ろう ⑯:平和と公正をすべての人に ⑰:パートナーシップで目標を達成しよう
	HMS-101	社会調査入門	講義	2	1	○		広い視野から人間や人間社会に関する理解の基礎を修得するためのひとつの科目として、社会調査入門が位置づけられている(カリキュラム・ポリシー①)。この授業では、人間社会を実証的に研究するための方法としての社会調査法の基礎を学ぶ。前半部分では、社会調査とは何か、その意義、問いをたて調査を実施するまでのプロセスについて学ぶ。後半部分では、社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を学ぶ。	(1)社会調査の基礎用語を理解し、調査の流れを説明できる(知識・理解)。 (2)調査倫理を遵守する態度を有している(態度)。 (3)調査を設計し、実施する際の留意点を説明できる(知識・理解)。	◎		○		
	HMS-201	人間科学概論	講義	2	3	○		広い視野から人間や人間社会に関する理解の基礎を修得するための科目である(カリキュラム・ポリシー①)。「人間」とは何か、という根本問題を探究している諸学問研究の成果を、学部3年次において再度とらえなおし、「人間科学」の形成過程とその学問的位置づけを考察する。また、履修学生相互の学びを通して、「人間観」「人間と科学技術」「人間集団」等をめぐる理解を深める。	(1)「人間性」を主題とする諸学問分野の理解に基づき、人間科学の学問的位置づけを説明できる(知識・理解)。 (2)異なる「人間像」を偏りなく理解し、説明できる(知識・理解)。 (3)人間や人間社会に関する課題について、多面的に考えようとする態度を有している(態度)。	●		◎		

常盤大学人間科学部 現代社会学科 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	春	秋	サバタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)				<SDGsの17のゴールとの関連> 概論:SDGsの概念や考え方を学ぶ ①: 貧困をなくそう ②: 飢餓をゼロに ③: すべての人に健康と福祉を ④: 質の高い教育をみんなに ⑤: ジェンダー平等を実現しよう ⑥: 安全な水とトイレを世界中に ⑦: エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧: 働きがいも経済成長も ⑨: 産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩: 人や国の不平等をなくそう ⑪: 住み続けられるまちづくりを ⑫: つくる責任つかう責任 ⑬: 気候変動に具体的な対策を ⑭: 海の豊かさを守ろう ⑮: 陸の豊かさを守ろう ⑯: 平和と公正をすすめるの人に ⑰: パートナリーシップで目標を達成しよう
											1.様々な社会について	2.現代社会の諸問題と変化を捉えるための情報的	3.現代社会の諸問題への関心を深め、それらに主体的に取り組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身につけている。(態度)	4.現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考えることができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)	
学科基本科目	SOB-111	現代社会学論	講義	2	1	○			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学的視点から現代社会の諸相の理解をはかるとともに、社会学の基本となる「相対的なものの見方」の基礎的素養を身につける。	(1) 現代の社会現象についての基礎的事項を理解する。 (2) 社会学的視点から社会現象を把握する能力を身につける。 (3) 相対的なものの見方についての基礎的素養を身につける。	●		◎		③
	SOB-112	社会学概論Ⅰ	講義	2	1	○			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学の基礎的な概念(基礎社会学のうちミクロ社会学領域)について知識を習得するとともに、社会学的思考の基礎を身につける。	(1) 個人をとりまく基礎的な社会について理解する。 (2) 個人の社会への適応過程について理解する。 (3) 基礎社会学のうちミクロ社会学の基礎的な知識を習得する。	●		◎		
	SOB-113	社会学概論Ⅱ	講義	2	2	○			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学の基礎的な概念(基礎社会学のうちマクロ社会学領域)について知識を習得するとともに、社会学的思考の基礎を身につける。	(1) 社会集団の特性について理解する。 (2) 社会構造と変動について基礎的な知識を習得する。 (3) 社会現象を社会学理論に基づいて理解する力を身につける。	●		◎		
	SOB-311	社会学史	講義	2	3	○			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学の学説史を学び、社会学の成立と発展過程とその時代背景についての理解を深める。	(1) 社会学の成立と発展過程について理解を深める。 (2) 市民社会の成立と発展と関連させて社会学の歩みをと捉えることができるようになる。 (3) 代表的な社会学理論について説明できる力を高める。	●		◎		⑪
	SOB-121	社会学研究方法	講義	2	1	○			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学における主要な研究方法を学び、実際に社会学的研究を実施するために必要な基礎的能力を獲得する。	(1) 主な社会学研究方法について知識を習得する。 (2) 社会学研究方法の考え方について理解する。 (3) 社会学研究方法の基礎的技法について身につける。	●		◎		
	SOB-122	社会学基礎演習Ⅰ	演習	2	1	○			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会を理解するために情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる能力を修得する。	(1) 社会学文献を適切に収集することができる。 (2) 文献の形式を理解する。 (3) 書誌情報を正しく表記することができる。		●	◎		
	SOB-123	社会学基礎演習Ⅱ	演習	2	1	○			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会を理解するために情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる能力を修得する。	(1) 社会科学文献を読み解き、レジュメ形式にまとめられる。 (2) 適切な引用ができる。 (3) レジュメをもとに発表することができる。		●	◎		
方法論・データサイエンス領域	SOB-221	社会学応用演習	演習	4	2	○			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会を理解するために情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる能力を修得する。併せて現代社会の諸課題の改善・解決の方策を考えることができる能力を身につける。	(1) 演習企画が立案できる。 (2) 他者との協働による問題解決力が身につく。 (3) 学修成果の発表技能が修得されている。		◎		●	
	SOM-111	社会調査法Ⅰ	講義	2	1	○			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会を把握するための方法論である社会調査法の基礎的知識(社会調査の基本的事項)を習得する。この科目は、社会調査士資格の「標準カリキュラム【A】社会調査の基本的な事項に関する科目」に対応している。	(1) 社会調査の意義と諸類型についての理解できる。 (2) 社会調査リテラシーの基礎が理解できる。 (3) 社会調査の過程を理解できる。	●		◎		
	SOM-112	社会調査法Ⅱ	講義	2	2	○			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会を把握するための方法論である社会調査法の基礎的知識(基礎的なデータの読解と基礎的分析)を習得する。この科目は、社会調査協会の定める社会調査士資格の「標準カリキュラム【C】基本的な資料とデータの分析に関する科目」に対応している。	(1) データの特性を把握できる。 (2) 基礎的な集計および検定法を理解できる。 (3) データを適切に分析することができる。	●		◎		
	SOM-113	社会調査法演習	演習	2	2	○			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会を理解するための方法論である社会調査法を実施するための基礎的な実践的能力を獲得する。この科目は、社会調査協会の定める社会調査士資格の「標準カリキュラム【B】調査設計と実施方法に関する科目」に対応している。	(1) 簡易な社会調査の企画・立案ができる。 (2) 調査票の作成・実査・分析・報告ができる。 (3) 統計パッケージの基本操作ができる。	●		◎		
	SOM-211	社会統計学	講義	2	2	○			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき現代社会を理解するための方法論である社会統計学の基礎を学び、各種データを社会科学の視点で読み解くことができる能力を修得する。この科目は、社会調査協会の定める社会調査士資格の「標準カリキュラム【D】社会調査に必要な統計学に関する科目」に対応している。	(1) データの型に応じた扱い方や表し方がわかる。 (2) 記述統計量の指標の意味と使い方がわかる。 (3) 確率論・推定・検定の考え方がわかる	●		◎		
	SOM-212	量的データの扱い方	演習	2	3	○			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会を理解するための方法論である社会調査法の多変量解析法の知識と実践的能力を修得する。なお、この科目は社会調査士資格の「標準カリキュラム【E】量的データ解析の方法に関する科目」に対応している。	(1) 変数を集計・分析するために適したデータに変換できる。 (2) 変数タイプを理解した上で、変数間の関連分析ができる。 (3) 予測モデルの作成・解釈ができる	◎			●	
	SOM-213	質的データの扱い方	演習	2	3	○			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会を理解するための方法論である社会調査法のうち、質的調査法に関する知識と質的調査法の技法を習得する。なお、この科目は社会調査士資格の「標準カリキュラム【F】質的な分析の方法に関する科目」に対応している。	(1) 質的調査の特性について理解できる。 (2) 質的調査の報告を読解できる。 (3) 質的調査の企画・実査・報告ができる。	◎			●	⑪
	SOM-311	社会調査実習	実習	6	3	○			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会を理解するための方法論である社会調査法の一連の過程を実地に経験することを通して、社会調査法の実践的能力を身につける。なお、この科目は社会調査士資格の「標準カリキュラム【G】社会調査を実際に経験し学習する科目」に対応している。	(1) 調査企画の立案ができる。 (2) 調査票の作成ができる。 (3) 他者と共同しての調査実査、分析および調査報告ができる。	◎			●	
	SOM-121	データサイエンス概論	講義	2	2	○			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会を認識する技法としてのデータサイエンスの基礎知識を習得する。	(1) データサイエンスの基礎的概念を理解できる。 (2) 情報のデジタル化による社会変化と課題について説明できる。 (3) データリテラシーの重要性を理解できる。	●		◎		⑨
	SOM-221	データサイエンス各論A	講義	2	2	○			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会を認識する技法としてのデータサイエンスの知見を用い、応用社会学領域に活用するための実践的能力を身につける。	(1) 課題に対して適切なデータを収集できる。 (2) 課題に対してデータを適切に加工・活用できる。 (3) データをもとに課題にアプローチすることができる。	●		◎		⑨
SOM-222	データサイエンス各論B	講義	2	2	○			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会を認識する技法としてのデータサイエンスの知見を用い、社会学関連領域に活用するための実践的能力を身につける。	(1) 課題に対して適切なデータを収集できる。 (2) 課題に対してデータを適切に加工・活用できる。 (3) データをもとに課題にアプローチすることができる。	●		◎		⑨	
SOM-321	データ分析演習	講義	4	3	○			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会を認識する技法としてのデータサイエンスの知見を用い、社会現象を分析する実践的・応用的技能を身につける。	(1) 目的に応じて、データを分析するための手法を選択できる。 (2) 収集したデータの効果的な表現方法を選択できる。 (3) データ分析結果を解釈することができる。	●			◎		

常盤大学人間科学部 現代社会学科 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)				<SDGsの17のゴールとの関連> 概論:SDGsの概念や考え方を学ぶ ①: 貧困をなくそう ②: 飢餓をゼロに ③: すべての人に健康と福祉を ④: 質の高い教育をみんなに ⑤: ジェンダー平等を実現しよう ⑥: 安全な水とトイレを世界中に ⑦: エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧: 働きがいも経済成長も ⑨: 産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩: 人や国の不平等をなくそう ⑪: 住み続けられるまちづくりを ⑫: つくる責任つかう責任 ⑬: 気候変動に具体的な対策を ⑭: 海の豊かさを守ろう ⑮: 陸の豊かさを守ろう ⑯: 平和と公正をすべての人に ⑰: パートナリシップで目標を達成しよう	
										1.様々な社会についての歴史的・文化的な理解が深められ、異文化や「他者」への想像力を伴った、21世紀に生きる人間に求められる相対的なものの見方を身につけている。また、関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについての認識を深めることができる。(知識・理解)	2.現代社会の諸現象と変化を捉えるための情報的・確信的に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる。(思考・判断)	3.現代社会の諸問題への関心を深め、それらに主体的に取り組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身につけている。(態度)	4.現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考案することができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)		
地域社会学	SOM-131	地理学特論 A	講義	2	2			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学関連領域としての地理学の視点を学び、地域社会を理解するための応用的学修として日本における地域社会の地理学的特性について理解を深める。	(1) 日本の地域社会の多様性を理解できる。 (2) 地域特性を人文地理学的知見から説明できる。 (3) 地域特性を自然地理学的知見から説明できる。	●	◎			⑧	
	SOM-132	地理学特論 B	講義	2	2			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学関連領域としての地理学の視点を学び、地域社会を理解するための応用的学修としてGIS(地理情報システム)に関する知識と方法を学び、空間データを視覚的に表示し、分析する手法を習得する。	(1) GISの概念と構成に関する知識を習得する。 (2) GISの活用法について技能を修得する。 (3) GISを実際に活用し、地理空間情報の取得と作成ができる能力を身につける。	●	◎			⑪	
	SOM-133	地理学特論 C	講義	2	2			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学関連領域としての地理学の視点を学び、地域社会を理解するための応用的学修として地図学に関する基礎的知識の取得と活用能力を身につける。	(1) 地図と地図学の意義について理解できる。 (2) 読図・作図の能力が獲得される。 (3) 統計資料の収集・表現の能力を身につけることができる。	●	◎				
家族・福祉社会学領域	SOF-111	家族社会学	講義	2	1	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、基礎的な社会関係・社会集団としての家族を社会学の視点から捉え、現代社会における家族の構造と変動について理解を深める。	(1) 現代社会における家族現象を新たなまなざしで捉えることができる。 (2) 家族社会学の基礎知識が習得される。 (3) 現代家族の変容について理解できる。	●		◎			
	SOF-112	産業・労働社会学	講義	2	1	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、産業・労働を社会学の視点から捉え、現代社会における産業・労働の構造と変動について理解を深める。	(1) 産業・労働構造の変化が理解できる。 (2) 産業・労働社会学の基礎知識が習得される。 (3) 現代社会における産業・労働の課題とその解決法について理解できる。	●		◎		⑧	
	SOF-211	保健・医療社会学	講義	2	2			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会の保健・医療に関する諸現象を社会学の観点から把握し、現代社会の特性を具体的な事象を通して理解する。	(1) 保健医療社会学の基礎的知識が理解できる。 (2) 保健医療の基本的制度について理解できる。 (3) 保健医療社会学の観点から社会現象を捉えることができる。	◎		●			
	SOF-212	ライフコースの社会学	講義	2	2			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会的存在としての人間の一生を社会学の視点から捉え、歴史的・地域的な比較とライフステージの特徴について理解する。	(1) ライフコースの成り立ちと変動について理解できる。 (2) 各ライフステージの特徴について理解できる。 (3) ライフコースの多様化に即して生じる社会の課題を説明できる。			●	◎		
	SOF-311	消費社会学論	講義	2	3			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、消費をめぐる通時的変化を社会変動と合わせて把握し、「消費」に対する社会的な理解を深める。	(1) 消費社会学の課題に関心を持つことができる。 (2) 消費社会学の課題を探究する意欲と能力を高めることができる。 (3) 社会構造・変動の観点から、消費行動について説明することができる。				●	◎	
	SOF-121	社会福祉の原理と政策	講義	2	2	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会福祉の歴史的展開過程、欧米との比較による日本の社会福祉の特性、現代の社会問題について理解し学修を深める。	(1) 社会福祉の原理をめぐり思想・哲学と理論を説明できる。 (2) 社会福祉の歴史的展開の過程と社会福祉の理論を踏まえ、欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を説明できる。 (3) 社会問題と社会構造の関係の観点から、現代の社会問題及び、人々の生活上のニーズと福祉政策の過程との関係について説明できる。	●		○		◎	③⑧
	SOF-122	社会保障	講義	2	2	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会保障の理論や仕組み、実際の社会保障の体系について理解する。	(1) 社会保障の理論、方法について理解・分析し、説明できる。 (2) 実際の社会保障の体系、仕組みについて理解・分析し、説明できる。 (3) 社会保障の歴史的展開、そしてそれらに基づき今後の社会福祉のあり方について、説明できる。	●	◎			③⑧⑩	
	SOF-123	児童・家庭福祉	講義	2	2	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、児童やその養育を担う家庭が抱えるさまざまな福祉問題の現状と、その解決を図るための福祉施策について学修する。	(1) 児童家庭福祉の分野(母子保健、障害児福祉、児童健全育成、保育、児童自立支援対策、児童虐待対策、ひとり親家庭福祉など)を説明できる。 (2) 児童家庭福祉の分野での課題と施策の現状を説明できる。 (3) 施策の根拠となる児童福祉法について説明できる。4) 政策提言などを検討できる。	●			◎	③⑧	
	SOF-124	高齢者福祉	講義	2	2	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、高齢者福祉の歴史的展開、高齢者福祉制度、高齢者福祉の関連法令を学修する。	(1) 少子高齢化の現状と要因について、また高齢期における高齢者と家族の課題について説明できる。 (2) 高齢者福祉の歴史的展開について説明できる。 (3) 介護保険制度や高齢者福祉の関連法令について説明できる。 (4) 高齢者や家族の状況について適切に理解し、支援の計画を考案することができる。	●			◎	③⑧	
	SOF-125	ソーシャルワークの理論と方法	講義	2	2	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、相談援助実践の過程を体系的かつ実践的に学ぶ。	(1) 対人援助の開始から終結までのプロセスを説明できる。 (2) 対人援助実践におけるアセスメントの重要性を説明できる。 (3) 対人援助にかかわる記録の重要性と記録の仕方、実践の蓄積の意義を説明することができる。	●			◎	③⑧⑩	
SOF-131	民法	講義	2	2	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学の学修をより深めるため民法の基礎について学修し、法的思考力を身につける。	(1) 民法の基本的な考え方について理解できる。 (2) 民法総則に関する基本的な知識が習得される。 (3) 物権法に関する基本的な知識が習得される。	●						
SOF-312	家族・福祉社会学特講	講義	△2	3	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、家族・福祉社会学領域の学びを踏まえ、現代日本における家族や福祉社会に関する事例を、複眼的な視点から読み取る能力を身につける。	(1) 現代の日本社会が抱える課題が理解できる。 (2) 比較研究の手法が理解できる。 (3) 相対的な視点から、社会現象を読み解く力が身につけられる。			●	◎			
地域社会学	SOP-111	地域社会学	講義	2	1	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、基礎的な社会集団としての地域社会/コミュニティを、社会学の視点から捉え、現代社会における地域社会の構造と変動について理解を深める。	(1) 地域社会の変化について理解できる。 (2) 地域社会学の基礎的知識が習得される。 (3) 全体社会との関係において地域社会の特性とその変化を説明できる。	●		◎		⑪	
	SOP-211	都市社会学	講義	2	2			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、地域社会としての都市の特性を社会学の観点から理解し、都市社会の変動について学修する。	(1) 都市社会学の基礎的知識が習得される。 (2) 都市化のメカニズムについて説明できる。 (3) 都市社会をめぐり新たな動向とその背景について理解することができる。	◎		●			
	SOP-212	農村社会学	講義	2	2			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、日本の農山村・村落の成り立ちや仕組み、変化を捉えた上で、現代農山村と第一産業が抱える課題とそれへの対応について理解を深める。	(1) 農村・村落社会学の学説史が理解できる。 (2) 日本における農村社会の変動過程と農村問題について説明できる。 (3) 農村の持続と展開について理解することができる。	◎		●		⑪	

常盤大学人間科学部 現代社会学科 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	春	秋	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1.様々な社会について歴史的・文化的な理解ができて、異文化や「他者」への想像力を伴った、21世紀に生きる人間に求められる相対的なものの見方を身につけている。また、関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについての認識を深めることができる。(知識・理解)	2.現代社会の諸現象と変化を捉えるための情報的・確信的に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる。(思考・判断)	3.現代社会の諸問題への関心を深め、それらに主体的に取り組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身につけている。(態度)	4.現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考えることができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)	<SDGsの17のゴールとの関連> 概論:SDGsの概念や考え方を学ぶ ①:貧困をなくそう ②:飢餓をゼロに ③:すべての人に健康と福祉を ④:質の高い教育をみんなに ⑤:ジェンダー平等を実現しよう ⑥:安全な水とトイレを世界中に ⑦:エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧:働きがいも経済成長も ⑨:産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩:人や国の不平等をなくそう ⑪:住み続けられるまちづくりを ⑫:つくる責任つかう責任 ⑬:気候変動に具体的な対策を ⑭:海の豊かさを守ろう ⑮:陸の豊かさを守ろう ⑯:平和と公正をすべての人に ⑰:パートナーシップで目標を達成しよう
公共・地域社会領域	SOP-213	国際社会学	講義	2	2			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、国際的な現象を社会学の方法を用いて分析し、人の移動、対立、統合、統治の現状と課題について考え、現代社会の国際的な諸問題への関心を深める。	(1) 国際社会学の基礎概念が理解できる。 (2) 国際人口移動に関連する国内外の現象を社会学の理論と関連付けて説明できる。 (3) 国際問題について社会学的視点から説明できる。	◎		●			
	SOP-311	エスニシティの社会学	講義	2	3			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、エスニシティに関する知識を習得し、内なる国際化が進行する地域社会の多様性への理解を深める。	(1) エスニックグループとエスニシティに関する基礎的な知識を習得する。 (2) エスニシティと全体社会との関係およびその課題について理解する。 (3) 日本におけるエスニシティの現状と課題について理解し、課題解決のための提案を提示することができる。	●			◎		
	SOP-214	公共性の社会学	講義	2	2		○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会における「公共」概念の形成とその変容について理解し、社会学的視点から現代社会における公共性について学修を深める。	(1) 公共性についての基礎的な知識を習得する。 (2) 公共性をめぐるこれまでの議論とその社会的背景について理解する。 (3) 脱近代における公共性の可能性について、見解を提示することができる。	●			◎		
	SOP-215	環境社会学	講義	2	2			現代社会学科カリキュラム・ポリシーに基づき、社会学的支店から環境問題の理解とその解決策、外部不経済について学び、現代社会を「環境」の視点から再考する。	(1) 環境問題の現象面と原因について理解できる。 (2) 環境問題の社会的背景について理解できる。 (3) 環境問題の解決策について提案できる。	◎		●			
	SOP-312	テクノロジーの社会学	講義	2	3			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、科学技術の進展とそれに対する人間社会の対応について理解し、科学技術導入の過程とその社会的影響を社会学的視点から学修を深める。	(1) 科学技術の発見・発明とその拒絶/受容過程に関する動向を把握する。 (2) 科学技術導入による社会の変動過程を理解する。 (3) 科学技術導入を契機とした社会変革について、構想することができる。	●			◎		
	SOP-313	災害社会学	講義	2	3			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学的視点から災害発生後の被災・復旧・復興、防災・減災について、災害研究をもとに学ぶ。	(1) 災害について社会学および周辺領域の視点からの理解できる。 (2) 防災・減災の制度面からの理解ができる。 (3) 災害・防災対応策の提案が可能となる。			●		◎	
	SOP-216	犯罪社会学	講義	2	2			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、犯罪社会学の基礎的な事項を学修し、社会事象としての逸脱について、理解を深める。	(1) 犯罪社会学の基礎的な知識が習得される。 (2) 犯罪統計に基づく犯罪の現状について考察できる。 (3) 安心・安全な社会の実現に向けた提案ができる。		◎	●			⑩⑪
	SOP-121	刑事法	講義	2	2		○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学の学修をより深めるため刑法の基礎について学修し、法的思考力を身につける。	(1) 刑法に関する基本的な考え方を身につけることができる。 (2) 刑法各論に関する基本的事項について理解できる。 (3) 刑法の機能を多面的・総合的に判断することができるようになる。	●	◎				
	SOP-122	交通地理学	講義	2	2		○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学関連領域としての地理学の視点を学び、交通地理学的手法による交通の分析・判断・洞察の技能を習得する。	(1) 交通地理学の基本的な考え方を身につけることができる。 (2) 地域交通政策を理解することができる。 (3) 交通地理学的手法による交通の分析・判断・洞察の技能を習得することができる。 (2) また交通に関する「地理的な見方や考え方」を身につけることができる。	●			◎	⑪	
	SOP-313	地域研究特講	講義	△2	3		○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、地域社会学の発展的課題として地域社会変動、とくに「開発」に焦点を当て、全体社会との関係の中での地域社会の位置づけを学び、俯瞰的な視点で部分社会を捉える能力を身につける。	(1) 地域社会変動の基本的な機序について理解できる。 (2) 事例研究の意義についての理解できる。 (3) 徹視的/巨視的視点から地域社会を把握することができる。			●		◎	
文化研究領域	SO-C-111	文化社会学	講義	□2	1		○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会における文化の多様性について学修し、文化と全体社会の関係について理解する。	(1) 現代社会における文化の諸相について基礎的な知識を習得する。 (2) 社会学および関連領域における文化研究の動向について把握する。 (3) 現代社会における文化と社会の関連、およびその課題について理解する。	●			◎	⑪	
	SO-C-211	宗教社会学	講義	2	2			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学史の文脈に沿って宗教研究を整理し、信仰世界の多様性の理解、現代社会における日本人と宗教の関係について理解を深める。	(1) 社会学史における宗教研究について基礎的な知識を習得する。 (2) 信仰世界の多様性を理解する。 (3) 宗教と現代社会の関わりについての理解を深める。			●		◎	
	SO-C-221	社会人類学	講義	2	2		○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学関連領域としての文化・社会人類学の視点を学び、文化と社会の多様性について、事例研究を基に理解を深める。	(1) 文化・社会人類学の基礎的な知識を習得する。 (2) 文化・社会人類学的方法論的特徴を理解する。 (3) 日本および世界の文化・社会の多様性を理解する。	●			◎	⑪	
	SO-C-212	スポーツ社会学	講義	■2	2			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、スポーツを社会学視点から捉え、スポーツの社会的意義と今日的課題について理解を深める。	(1) スポーツ社会学の基本論点を理解する。 (2) スポーツの社会的役割への理解を深める。 (3) 現代社会におけるスポーツをめぐる諸問題・諸課題の理解が可能となる。			●		◎	
	SO-C-222	スポーツ人類学	講義	■2	2		○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学関連領域としての文化・社会人類学の視点を学び、スポーツと文化と社会との関係について学修を深める。	(1) スポーツを通して、日本および世界の文化・社会の多様性を理解する。 (2) スポーツ化の過程を理解する。 (3) スポーツ研究における事例研究の意味を理解する。	●			◎		
	SO-C-311	スポーツ社会学演習	演習	■4	3		○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会におけるスポーツと社会の関係を捉え、社会調査の手法を用いて実証的にデータを収集し、分析する能力を身につける。	(1) スポーツと社会に関する調査課題を立案できる。 (2) スポーツと社会に関する適切なデータを収集・分析できる。 (3) 他者との協働による問題解決力を獲得する。		◎		●		
	SO-C-223	都市地理学	講義	2	2		○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学関連領域としての地理学の視点を学び、地域社会としての都市の特性を地理学的方法を用いて把握する能力を身につける。	(1) 都市地理学の基礎的な知識を習得する。 (2) 地理学的視点から都市の分布や構造とその特徴を説明できる。 (3) 現在の都市で発生している諸課題を現代社会の諸問題と関連させて捉え、その解決策について考察できる。	●			◎		
	SO-C-224	村落地理学	講義	2	2			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、地域社会学を理解するための学修として村落地理学の視点を学び、村落社会学を空間的に把握するための考え方を習得する。	(1) 村落社会学および村落地理に関する基礎的な知識を習得する。 (2) 日本の村落社会学の類型と性格を地理学の視点から確認する。 (3) 村落社会学を空間的に把握する手法を身につける。	●			◎		
	SO-C-225	社会史	講義	2	2		○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学関連領域としての歴史学の視点を学び、社会史の成立と展開過程を学修し、社会を歴史学的視点から捉える手法について学ぶ。	(1) 社会史の学説史を理解できる。 (2) 社会の歴史的・文化的理解を深める。 (3) 社会史の手法について理解できる。	●			◎		

常盤大学人間科学部 現代社会学科 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	春	秋	サ	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1.様々な社会について歴史的・文化的な理解が深め、異文化や「他者」への想像力を伴った、21世紀に生きる人間に求められる相対的なもの見方を身につけている。また、関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについての認識を深めることができる。(知識・理解)	2.現代社会の諸現象と変化を捉えるための情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる。(思考・判断)	3.現代社会の諸問題への関心を深め、それらに主体的に取り組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身につけている。(態度)	4.現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考案することができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)	<SDGsの17のゴールとの関連> 概論:SDGsの概念や考え方を学ぶ ①:貧困をなくそう ②:飢餓をゼロに ③:すべての人に健康と福祉を ④:質の高い教育をみんなに ⑤:ジェンダー平等を実現しよう ⑥:安全な水とトイレを世界中に ⑦:エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧:働きがいも経済成長も ⑨:産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩:人や国の不平等をなくそう ⑪:住み続けられるまちづくりを ⑫:つくる責任つかう責任 ⑬:気候変動に具体的な対策を ⑭:海の豊かさを守ろう ⑮:陸の豊かさを守ろう ⑯:平和と公正をすべての人に ⑰:パートナーシップで目標を達成しよう
授業科目	SO-C-226	村落史	講義	2	2				現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学関連領域としての歴史学の視点を学び、地域社会を理解するための学修として現代日本社会の基層をなす村社会の構造と特質、その展開を学ぶ。	(1)前近代の村社会の特質と展開を、現代日本の社会的・文化的基層として理解できるようになる。 (2)村をめぐる人々との関係(村内外の住民関係、領主と領民の関係など)、人と自然の関係の歴史を踏まえ、将来のよりよい社会像を構想できるようになる。 (3)先人である百姓の生業と暮らしを豊かに復元・イメージし、現代・将来を生きる自分たちのあり方を見つめ直す鑑と	●		◎			
	SO-C-227	民俗学	講義	2	2				現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学関連領域としての日本民俗学の視点を学び、日本社会の基層をなす民俗社会の構造と変容を知り、日本社会・文化への理解を深める。	(1)日本民俗学の基本的な考え方を理解できる。 (2)民俗変容についての理解を深める。 (3)現代日本を民俗学の視点から捉えることができる。	●		◎			
	SO-C-312	文化研究特講	講義	△2	3				現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代日本の文化事象についての発展的な学びを通し、文化の観点から現代社会に対する理解を深める。	(1)文化研究の基本的な考え方を理解できる。 (2)現代日本の文化的特徴について理解を深める。 (3)文化研究を実際に行うための基礎能力を獲得する。	●		◎			
関連科目	SOO-101	法学(国際法を含む)	講義	2	1				現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学関連領域としての法学の視点を学び、法の基本的性格を理解し、法学的思考力を身につける。	(1)法の概要を理解できる。 (2)日本の法体系と法の適用の仕組みについて説明できる。 (3)社会の様々な事象について、法的観点から分析できる。	●					
	SOO-102	政治学(国際政治を含む)	講義	2	1				現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学関連領域としての政治学の視点を学び、権力と支配といった政治的営為、さらには国際政治についての理解を深める。	(1)政治学の基本的な考え方や基礎知識を習得する。 (2)国際情勢を把握するための基礎的な視座・分析枠組みと専門知識を身につけることができる。 (3)現代社会の様々な事象を政治学的視点から洞察することができるようになる。	●		◎			
	SOO-103	経済学(国際経済を含む)	講義	2	1				現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学関連領域としての経済学の視点を学び、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎知識を習得する。	(1)経済学の基本的な考え方や基礎知識を習得する。 (2)経済学の観点から社会的事象を論じることができるようになる。 (3)経済理論と政府統計等のデータを応用し、政策の立案・提言ができるようになる。	●		◎			
	SOO-104	哲学概論	講義	2	1				現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学関連領域としての哲学の視点を学び、ヨーロッパと東洋(中国)の哲学と思想について基礎的知識を習得とする。	(1)哲学の学説史を説明できる。 (2)西洋と東洋の哲学・思想の概要を説明できる。 (2)学問の基盤に哲学的思考があることを認識できる。	●		◎			
	SOO-105	倫理学概論	講義	2	1				現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学関連領域としての倫理学の視点を学び、日本人の倫理思想を形成してきた儒教思想および仏教思想、およびキリスト教を基本とする西洋の倫理思想を考察し、現代日本の倫理思想についての理解を深める。	(1)倫理学の基本的な考え方や基礎知識を習得する。 (2)現代日本人の倫理観を形成している様々な倫理思想を知る。 (3)自分や他人の行動を客観的に考えることができるようになる。	●		◎			
	SOO-106	人文地理学 I	講義	2	1				現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、地域社会を理解するための基礎的学修として人文地理学の基礎を学び、地域社会を空間的に把握するための考え方を習得する。	(1)人文地理学の基本的な考え方や基礎的知識を習得する。 (2)人文地理学における空間把握についての方法の基礎的知識を習得する。 (3)人文地理学の方法を用いて、地域社会の構造と変動を把握することができる。	●		◎			
	SOO-107	自然地理学 I	講義	2	1				現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、地域社会を理解するための基礎的学修として自然地理学の基礎を学び、地域社会を自然的立地条件から把握するための考え方を習得する。	(1)自然地理学の基本的な考え方や基礎的知識を習得する。 (2)地域社会を自然地理学的背景から捉える方法の基礎的知識を習得する。 (3)自然地理学の方法を用いて、地域社会の特性を把握することができる。	●		◎			
卒業研究	THS-201	ゼミナール I	演習	2	3				現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、卒業研究の準備段階として先行研究の整理、文献講読、データ収集等の研究基礎力を身につける。	(1)ゼミナール I で取り扱う現代社会に関連するテーマについて理解できる。 (2)研究するうえでの倫理的態度や基礎的スキルを身に付けている。 (3)必要な資料を収集し、発表のために活用できる。		◎		●		
	THS-202	ゼミナール II	演習	2	3				現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、卒業研究の準備段階として先行研究の整理、文献講読、データ収集等の研究基礎力を身につける。	(1)ゼミナール II で取り扱う現代社会に関連するテーマについて理解できる。 (2)研究を進めるための基礎的知識・スキルを身に付けている。 (3)必要な資料を収集し、発表のために活用できる。		◎		●		
	THS-301	卒業論文 I	演習	2	4				現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、学士課程における学修の集大成となる「卒業論文」の作成に向けた学修を行う。	(1)卒業論文を仕上げるための計画を立てることができる。 (2)卒業論文を作成するために必要な知識・スキルを身に付けている。 (3)文献調査を進めることができる。		◎	○	●		
	THS-302	卒業論文 II	演習	4	4				現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、学士課程における学修の集大成となる「卒業論文」の作成に向けた学修を行う。	(1)卒業論文を計画に沿って仕上げるができる。 (2)基準に見合う卒業論文を作成できる。 (3)卒業論文を作成するための倫理的態度やスキルを身に付けている。		◎	○	●		

常盤大学人間科学部 現代社会学科 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	春学期	秋学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1.様々な社会についての歴史的・文化的な理解が深まり、異文化や「他者」への想像力を伴った、21世紀に生きる人間に求められる相対的なものの見方を身につけている。また、関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについての認識を深めることができる。(知識・理解)	2.現代社会の諸現象と変化を捉えるための情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる。(思考・判断)	3.現代社会の諸問題への関心を深め、それらに取り組んでいく主体性を、健全な批判精神、倫理観を身につけている。(態度)	4.現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考案することができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)	<SDGsの17のゴールとの関連> 概念:SDGsの概念や考え方を学ぶ ①:貧困をなくそう ②:飢餓をゼロに ③:すべての人に健康と福祉を ④:質の高い教育をみんなに ⑤:ジェンダー平等を実現しよう ⑥:安全な水とトイレを世界中に ⑦:エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧:働きがいも経済成長も ⑨:産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩:人や国の不平等をなくそう ⑪:住み続けられるまちづくりを ⑫:つくる責任つかう責任 ⑬:気候変動に具体的な対策を ⑭:海の豊かさを守ろう ⑮:陸の豊かさを守ろう ⑯:平和と公正をすべての人に ⑰:パートナーシップで目標を達成しよう
---------	-------------	-------	-------	--------	----	-----	-----	------------	-----------------------------------	-------------------	---	--	--	---	---

【2022年度以前適用カリキュラム】 常盤大学 人間科学部 現代社会学科 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

SOC-331	ジェンダーとセクシュアリティの社会学	講義	2	3				現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、「現代社会の諸問題への問題関心を深め、それらに取り組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身につけ、専門領域に関する問題意識を深化させるため、ジェンダー、セクシュアリティ論の基礎的な視点を確認しながら、現代社会に存在する様々なジェンダー不平等な側面について、社会学の観点から把握することを目指す。	(1)ジェンダーとセクシュアリティに関する基礎的な概念の理解。 (2)ジェンダーとセクシュアリティの観点からの社会現象の理解。 (3)現代社会の様々な課題を発見する力の修得が可能となる。	◎				
SOW-111	社会学と社会システム	講義	2	2			○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学の基本となる「相対的なものの見方」を身につけ、その観点から現代社会を理解するために、現代社会の特性、生活の多様性、人と社会の関係、社会問題とその背景について社会学の観点から学修を深める。	(1)現代社会の特性を説明できる。 (2)生活の多様性について説明できる。 (3)人と社会の関係について説明できる。 (4)社会問題とその背景について説明できる。	●			◎	
SOC-261	社会安全論	講義	2	2				現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、「現代社会の諸問題、社会現象について応用的な知識を習得し、自分の問題関心の方向性を見定め」るため、社会安全の担い手として、市民、警察、検察、裁判所、刑務所、少年院、保護観察所を取上げ、それぞれが社会安全に果たす役割について概説するものである。	(1)社会安全の担い手である個人・団体・機関等について、それぞれが果たす役割及び重要性について理解する。 (2)これについて説明できるようになる。	●			◎	
SOW-112	医学概論	講義	2	3			○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシー「関連諸科学の知識を活かし、人のライフステージにおける心身の変化と健康課題、健康・疾病の捉え方、人の身体構造と心身機能、疾病と障害の成り立ち及び回復過程、公衆衛生の観点からの人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策について学修を深める。	(1)人のライフステージにおける心身の変化と健康課題について説明できる。 (2)人の身体構造と心身機能、健康・疾病の捉え方、疾病と障害の成り立ち及び回復過程について説明できる。 (3)公衆衛生の観点から、人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策について説明できる。	●			◎	
SOW-113	心理学と心理的支援	講義	2	1			○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシー「関連諸科学の知識を活かし、人の心の基本的な仕組みと機能、環境との相互作用の中で生じる心理的反応の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題、日常生活と心の健康との関係、心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援、について学修を深める。	(1)人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用の中で生じる心理的反応を説明できる。 (2)人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題、日常生活と心の健康との関係について説明できる。 (3)心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援について説明できる。	●			◎	
SOW-115	社会福祉調査の基礎	講義	2	3			○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学の基本となる「相対的なものの見方」を身につけ、その観点から現代社会を理解するために、社会福祉調査の意義と目的への理解、社会福祉調査と社会福祉の歴史的關係、社会福祉調査における倫理や個人情報保護、量的調査の方法及び調査の結果の解釈、質的調査の方法及び調査の結果の解釈、ソーシャルワーク実践の評価の意義や方法について、学修を深める。	(1)社会福祉調査の意義と目的、社会福祉調査と社会福祉の歴史的關係、ソーシャルワークにおける評価の意義について説明できる。 (2)社会福祉調査における倫理や個人情報保護について説明できる。 (3)量的調査、質的調査の方法及び調査の結果について適切に説明できる。	●			◎	
SOW-131	ソーシャルワークの基盤と専門職	講義	2	1			○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシー「関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについて認識を深めるために、ソーシャルワーク(相談援助)に関する最も基礎的な科目として、ソーシャルワーカーの職務、法律上の規定、ソーシャルワーク実践にかかわる理念や視点について学ぶ。	(1)ソーシャルワーカーの役割について説明できる。 (2)ソーシャルワークの実践を支える理念について説明できる。 (3)ソーシャルワークの形成の歴史の概要について説明できる。 (4)ソーシャルワークの実践を支える倫理、倫理的ジレンマについて説明できる。	●			◎	
SOW-132	ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)	講義	2	1			○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシー「関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについて認識を深めるために、社会福祉士の職域と求められる役割、ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性、総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について、学修を深める。	(1)相談援助専門職の概念について説明できる。 (2)地域を基盤としたソーシャルワークとはどのようなものか、またその必要性について説明できる。 (3)総合的かつ包括的な相談援助において求められる機能について説明できる。	●			◎	
SOW-134	ソーシャルワークの理論と方法(専門)	講義	2	2			○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシー「関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについて認識を深めるために、対人援助の主要な理論を取り上げながら、援助者(利用者)のそれぞれの状況と、両者を取り巻く環境の捉え方を学ぶ。そして、援助者が持つべき専門性、その専門性を発揮して問題解決を図る援助実践のための基礎的知識を学ぶ。	(1)実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を説明できる。 (2)支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について説明できる。 (3)地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて説明できる。 (4)事例分析の意義や方法を説明できる。	●			◎	
SOW-128	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	講義	2	2			○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシー「関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについて認識を深めるために、ソーシャルワークを行う上で基礎的知識である地域福祉の基本的な考え方・展開・動向、地域福祉における主体・対象及び住民の主体形成の概念、地域福祉を推進するための福祉行政の実施体制と果たす役割、地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義、目的及び展開について学修を深める。	(1)地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について説明できる。 (2)地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を説明できる。 (3)地域福祉を推進するための、福祉行政の実施体制と果たす役割、地域福祉計画等の福祉計画の意義、目的及び展開について説明できるようになる。	●			◎	
SOW-129	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	講義	2	2			○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシー「関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについて認識を深めるために、地域福祉における主体・対象及び住民の主体形成の概念、包括的支援体制の考え方、多職種及び多機関協働の意義と実際、地域生活課題の変化と現状を踏まえた包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割について学修を深める。	(1)包括的支援体制の考え方、多職種及び多機関協働の意義と実際について説明できる。 (2)地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士等の役割を説明できるようになる。	●			◎	
SOW-225	福祉サービスの組織と経営	講義	2	3			○	福祉サービスの組織と経営 現代社会学科のカリキュラム・ポリシー「関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについて認識を深めるために、社会福祉サービスの主な提供組織の機能と役割、組織管理の理論と実際について総合的に学ぶ。授業を通して、社会福祉専門職として必要とされる経営管理の知識とスキルを身につける。	(1)福祉サービスの提供組織や団体にかかる制度や内容が説明できる。 (2)福祉サービスの組織と人材育成について説明できる。 (3)福祉サービスの財務会計の基本と情報管理について説明できる。	●			◎	
SOW-124	障害者福祉	講義	2	1			○	障害者福祉を概観する 現代社会学科のカリキュラム・ポリシー「関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについて認識を深めるために、ソーシャルワークを行う上で基礎的知識である障害の概念と特性、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境、障害者福祉の歴史と障害者観の変遷及び制度の発展過程、障害者に対する法制度と支援の仕組み、高齢期における生活課題を踏まえた社会福祉士としての適切な支援のあり方について、学修を深める。	(1)障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について説明できる。 (2)障害者福祉の歴史と障害者観の変遷、制度の発展過程について説明できる。 (3)障害者に対する法制度と支援の仕組みについて説明できる。 (4)障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士としての適切な支援のあり方について説明できる。	●			◎	
SOW-126	貧困に対する支援	講義	2	2			○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシー「関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについて認識を深めるために、公的扶助の専門的な知識、技術、価値観を定着させることを目指す。貧困・低所得にある人々への理解と、その支援のための生活保護制度や生活困窮者自立支援制度の理解を深め、低所得者への個別支援の方法を学ぶ。	(1)貧困の概念や原因、貧困・低所得層の人々が直面している課題を説明できる。 (2)生活保護など公的扶助制度の仕組みや機能を説明できる。 (3)制度や社会資源を活用し、他職種連携・ネットワークにより所得者の課題解決を支援する技術について説明できる。	●			◎	
SOW-127	保健医療と福祉	講義	2	2			○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシー「関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについて認識を深めるために、講義を通して、保健医療の動向、保健医療に係る政策・制度・サービス、保健医療領域における社会福祉士の役割と連携や協働、保健医療の課題を持つ人に対する社会福祉士としての適切な支援のあり方、について学修を深める。	(1)今日の社会保障制度や保健医療サービスの変遷や概要について説明できる。 (2)保健医療サービスにおける専門職の機能・役割を説明できる。 (3)保健医療サービス関係者や地域の社会資源との連携を説明できる。 (4)保健医療サービスにおける社会福祉専門職の専門性について考えを述べるができる。	●	◎			

常盤大学人間科学部 現代社会学科 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1.様々な社会について	2.現代社会の諸現象と変化を捉えるための情報的	3.現代社会の諸問題への関心を深め、それらに主体的に取組む	4.現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考	<SDGsの17のゴールとの関連> 概論:SDGsの概念や考え方を学ぶ ①:貧困をなくそう ②:飢餓をゼロに ③:すべての人に健康と福祉を ④:質の高い教育をみんなに ⑤:ジェンダー平等を実現しよう ⑥:安全な水とトイレを世界中に ⑦:エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧:働きがいも経済成長も ⑨:産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩:人や国の不平等をなくそう ⑪:住み続けられるまちづくりを ⑫:つくる責任つかう責任 ⑬:気候変動に具体的な対策を ⑭:海の豊かさを守ろう ⑮:陸の豊かさを守ろう ⑯:平和と公正をすべての人に ⑰:パートナーシップで目標を達成しよう
										1.様々な社会について	2.現代社会の諸現象と変化を捉えるための情報的	3.現代社会の諸問題への関心を深め、それらに主体的に取組む	4.現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考	
	SOW-224	権利擁護を支える法制度	講義	2	2	○		現代社会学科のカリキュラムポリシー「関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについて認識を深めるために」、ソーシャルワークを行う上での基礎的知識となる、法に共通する基本的な知識、権利擁護を支える憲法・民法・行政法の基礎、権利擁護の意義と支える仕組み、権利が侵害されている者や日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実践、権利擁護活動を実践する過程で直面する問題の法的観点からの理解、ソーシャルワークにおいて必要となる成年後見制度、について学修を深める。	(1)法に共通する基礎的な知識を身につけるとともに、権利擁護を支える憲法、民法、行政法の基礎を説明できる。 (2)権利擁護の意義と支える仕組み、権利が侵害されている者や日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実践について説明できる。 (3)ソーシャルワークにおいて必要となる成年後見制度について説明できる。 (4)権利擁護活動を実践する過程で直面する問題を、法的観点から説明できる。	●	◎			
	SOW-223	刑事司法と福祉	講義	2	3	○		現代社会学科のカリキュラムポリシー「関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについて認識を深めるために」、刑事司法の近年の動向と制度の仕組み、刑事司法における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割、刑事司法の制度に関わる関係機関等の役割、について学修を深める。	(1)刑事司法の近年の動向と制度の仕組みを説明できる。 (2)刑事司法における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割について説明できる。 (3)刑事司法の制度に関わる関係機関等の役割について説明できるようになる。	●		◎		
	SOW-241	ソーシャルワーク演習	演習	2	2	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーである「現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考える力を身につけるために」、社会福祉士が専門的業務を展開する上で必要とされる基本的な、ソーシャルワークの価値規範と倫理、ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力術や、その活用のあり方を扱う。	(1)ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的な理解。 (2)ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力の涵養・向上。 (3)ソーシャルワークの展開過程において用いられる知識と技術の実践的な理解、が可能となる。	◎		●		
	SOW-341	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ	演習	4	3	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーである「現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考える力を身につけるために」、ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていけるよう実践的に学ぶ。すなわち、社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範の理解と倫理的な判断能力、分野横断的な総合的かつ包括的な支援の理解、地域の特性や課題を把握し解決するための地域アセスメントや評価等の仕組み、マイクロ・メソ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開等を学ぶ。また、実習後には、ソーシャルワークに係る知識と技術について個別具体的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得できるよう指導を行う。	(1)社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し倫理的な判断が行える。 (2)支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援、マイクロ・メソ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程について実践の観点から説明できる。 (3)実習を通じて体験した事例の検討を実際に行うことによる、ソーシャルワークの方法について具体的な説明ができる。	◎		●		
	SOW-342	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ	演習	4	4	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーである「現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考える力を身につけるために」、ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていけるよう実践的に学ぶ。すなわち、地域の特性や課題を把握し解決するための地域アセスメントや評価等の仕組み、マイクロ・メソ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチ、スーパービジョン体験等を学ぶ。実習後には、ソーシャルワークに係る知識と技術について個別具体的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得できるよう指導を行う。	(1)地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みの実践的に理解し説明できる。 (2)マイクロ・メソ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについての実践的な理解(実習を通じて体験した事例での理解も含む)し説明できる。	◎		●		
	SOW-343	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	演習	2	3	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーである「現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考える力を身につけるために」、そのため、ソーシャルワーク実習指導Ⅰでは、ソーシャルワーク実習Ⅰの事前準備として、実際に実習を行う実習分野・施設・機関の理解、実習先で関わる他の職種専門性や業務、実習先で必要とされるソーシャルワークの知識及び技術に関する理解、実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解、実習計画の作成、実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務や価値規範の理解を扱う。実習後は、実習体験の報告、実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理、実習後の自己評価・他者評価、全体総括会、実習総括レポートの作成等を通じ、体験の振り返りと既存知識との統合を行う。	(1)ソーシャルワーク実習の意義について説明できる。 (2)社会福祉士として求められる役割や、価値と倫理に基づく専門職としての基礎的態度を示すことができる。 (3)ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的なかつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得している。	◎		●		
	SOW-344	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	演習	1	4	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーである「現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考える力を身につけるために」、ソーシャルワーク実習Ⅱの事前準備として、実際に実習を行う実習分野・施設・機関の理解、実習先で関わる他の職種の専門性や業務、実習先で必要とされるソーシャルワークの知識及び技術に関する理解、実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解、実習計画の作成、実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務や価値規範の理解を扱う。また実習後には、実習体験の報告、実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理、実習後の自己評価・他者評価、全体総括会、実習総括レポートの作成等を通じ、体験の振り返りと既存知識との統合を行う。	(1)ソーシャルワーク実習の意義の理解。 (2)社会福祉士として求められる役割の理解と、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢の涵養。 (3)ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的なかつ実践的な理解と、ソーシャルワーク機能を発揮するための能力の習得が可能となる。	◎		●		
	SOW-345	ソーシャルワーク実習Ⅰ	実習	4	3	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーである「現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考える力を身につけるために」、ソーシャルワーク実習Ⅰでは、夏季休暇期間中に、様々な分野や種別に配属され、180時間以上の実習に取り組む。「職場体験」や「特定施設での援助体験」をするだけでなく、個別の場での体験を通じて、援助実践現場に出ても対応できる通底的・普遍的なソーシャルワーク技術を学び体得する。そして、その実習の中で、職場の理解、職種の理解、ソーシャルワークの理解を順次図っていく。社会福祉施設・機関で180時間以上の現場実習を行い、相談援助実習担当教員が、週1回、実習先への巡回指導または併校指導を行う。	(1)ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための基本的実践を行うことができる。 (2)支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)についての把握できる。 (3)生活上の課題(ニーズ)に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行える。 (4)施設・機関等が地域社会の中で果たす役割について実践に基づき説明できる。	◎	○	●		
	SOW-346	ソーシャルワーク実習Ⅱ	実習	2	4	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーである「現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考える力を身につけるために」、ソーシャルワーク実習Ⅱの体験を踏まえ、ソーシャルワーク実習Ⅱでは、様々な分野や種別に配属され、60時間以上の実習に取り組む。個別の場での体験を通じて、通底的・普遍的なソーシャルワーク技術についての学びを深め体得する。社会福祉施設・機関で60時間以上の現場実習を行い、相談援助実習担当教員が週1回、実習先への巡回指導を行う。	(1)ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力の涵養。 (2)生活上の課題(ニーズ)に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源の把握。 (3)施設・機関等が地域社会の中で果たす役割の実践的な理解。 (4)総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容の実践的な理解が可能となる。	◎	○	●		
	SOC-361	少年非行論	講義	2	3			この授業では、最初に少年法の理念や非行少年の類型について説明した後に少年非行の現状について概観する。その上で非行発現から少年に対する処分についての手続を一般の刑事手続との相違も説明しながら概観する。少年法は非行少年に対応するための基本となる法律であるが、児童福祉法や少年院法等も少年法に関連する法律であるので、必要に応じて取り上げることとする。この科目は、総合政策学部開講科目「少年法」との合同開講科目である。カリキュラム・ポリシー上、この科目は社会安全分野の科目に位置づけられる。	(1)少年法第1条に掲げる少年の健全育成の理念を念頭に置いて、成人に対する司法手続と少年に対する司法手続との違いを含めた少年法の概要について理解し、合理的な根拠を示すことなく「少年法は甘い法律である」などの主張をすることなく、何故に成人と少年では適用される法律が異なるのかについて把握した上で、批判すべきは批判することなど、多面的総合的に判断することが出来るようになること。	◎		●		
	SOC-334	社会統計学演習Ⅰ	演習	☆2	3	○		カリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会を理解するための方法論として、「情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる」能力を修得するため、また、実証的な教育を通して、「現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考えることができる」能力を涵養する。社会統計学演習Ⅰでは、必要な資料を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことを目指す。演習では、社会統計学の基礎知識を踏まえ、Web上で公開されている様々な統計資料を活用する知識とそれらのデータを卒業論文に活用するためのPC技能を習得する。さらに、統計データが収集される社会(茨城県)の現場を観察する機会を設け、データと現実社会の両方の情報を捉えることの重要性を理解する。	(1)必要な統計データを解釈できる。 (2)調査の結果を資料やデータを用いて整理することができる。 (3)調査課題に対する結果・考察をまとめることができる。 (4)卒業論文につながる資料を作成できる。 (5)学科の専門科目で得た知識をもとに、卒業論文につながるテーマの問を明確にすることができる。 (6)社会調査法の基礎知識をもとに、興味をもった課題を明らかにする方法を考案することができる。 (7)自己と社会の関わりについての認識を深めることができる。	◎		●		

常盤大学人間科学部 現代社会学科 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1.様々な社会についての歴史的・文化的な理解が得られ、異文化や「他者」への想像力を伴った、21世紀に生きる人間に求められる相対的なものの見方を身につけている。また、関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについての認識を深めることができる。(知識・理解)	2.現代社会の諸現象と変化を捉えるための情報的・確信的に収集し、それらを社会科学の視点から読み解くことができる。(思考・判断)	3.現代社会の諸問題への関心を深め、それらに取組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身につけている。(態度)	4.現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考案することができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)	<SDGsの17のゴールとの関連> 概論:SDGsの概念や考え方を学ぶ ①:貧困をなくそう ②:飢餓をゼロに ③:すべての人に健康と福祉を ④:質の高い教育をみんなに ⑤:ジェンダー平等を実現しよう ⑥:安全な水とトイレを世界中に ⑦:エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧:働きがいも経済成長も ⑨:産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩:人や国の不平等をなくそう ⑪:住み続けられるまちづくりを ⑫:つくる責任つかう責任 ⑬:気候変動に具体的な対策を ⑭:海の豊かさを守ろう ⑮:陸の豊かさを守ろう ⑯:平和と公正をすべての人に ⑰:パートナーシップで目標を達成しよう
	SOC-335	社会統計学演習 II	演習	☆2	3	○		カリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会を理解するための方法論として、「情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点から読み解くことができる」能力を修得するため、また、実証的な教育を通して、「現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考案することができる」能力を涵養する。社会統計学演習 II では、社会統計学演習 I で習得した統計データ活用知識・技能、フィールドワークの経験をもとに、必要な資料を的確に収集し、それらを社会科学の視点から読み解く力をさらに磨くことを目指す。統計学演習 I で作成した報告書をもとに、演習テーマに関連する情報をさらに追加し、最終報告書としてまとめ、卒業論文制作へと繋げていくことが授業の目標となる。また、グループ討論やグループワークを重視した指導方法を通して、「社会的存在としての人間」、「他者と共に生きていく人間」を実感的に認識でき、その実践的能力を涵養する学修機会を用意する。	(1) 必要な統計データを解釈できる。 (2) 調査の結果を資料やデータを用いて整理することができる。 (3) 調査課題に対する結果・考察をまとめることができる。 (4) 執筆計画をまとめることができる。 (5) 学科の専門科目で得た知識をもとに、演習テーマの間を明確にすることができる。 (6) 社会調査法の基礎知識をもとに、設定した課題を明らかにする方法を考案することができる。 (7) 作成した報告書を洗練させるための作業ができる。 (8) 自己と社会の関わりについての認識を深めることができる。	◎	●			
	SOC-351	社会安全論演習	演習	☆6	3	○		この授業は、地域社会における犯罪予防、食の安全など、社会安全に関わる諸問題について、受講生自身が主体的に考察し、問題解決のための方策について模索することを目的とした演習である。春及び秋 semester は、受講生全体を2クラスに分割した上で教員全員による各 semester 7回ずつのオムニバス方式で授業を展開し(クラス編成等は掲示板を確認。なお春 semester 1回及び秋 semester 15回は受講生全員を集めて授業を行う)、夏季セッションは、3日間の集中で実施する春 semester 期間に詳細について別途説明・掲示)。この授業は、カリキュラム・ポリシーにいう社会の安全・安心に関わる分野に位置づけられる。	(1) 現代社会における社会安全に関する諸問題について認識できるようになること。 (2) 当該問題解決のための方策について自らが模索できるだけの知識・技法等を身につけること。 (3) 現代社会の課題の1つである社会安全に係る問題について、多角的に見出せるようになること当該問題解決のための方策について考えることができるようになること。	◎	●			
	SOC-362	社会安全論演習 I	演習	☆2	3	○		この授業は、地域社会における犯罪予防、食の安全など、社会安全に関わる諸問題について、受講生自身が主体的に考察し、問題解決のための方策について模索することを目的とした演習である。春及び秋 semester は、受講生全体を2クラスに分割した上で教員全員による各 semester 7回ずつのオムニバス方式で授業を展開する。この授業は、カリキュラム・ポリシーにいう社会の安全・安心に関わる分野に位置づけられる。	(1) 現代社会における社会安全に関する諸問題について認識できるようになること。 (2) 当該問題解決のための方策について自らが模索できるだけの知識・技法等を身につけること。 (3) 現代社会の課題の1つである社会安全に係る問題について、多角的に見出せるようになること当該問題解決のための方策について考えることができるようになること。	◎	●			
	SOC-363	社会安全論演習 II	演習	☆2	3	○		この授業は、地域社会における犯罪予防、食の安全など、社会安全に関わる諸問題について、受講生自身が主体的に考察し、問題解決のための方策について模索することを目的とした演習である。この授業は、カリキュラム・ポリシーにいう社会の安全・安心に関わる分野に位置づけられる。	(1) 現代社会における社会安全に関する諸問題について認識できるようになること。 (2) 当該問題解決のための方策について自らが模索できるだけの知識・技法等を身につけること。 (3) 現代社会の課題の1つである社会安全に係る問題について、多角的に見出せるようになること当該問題解決のための方策について考えることができるようになること。	◎	●			
	SOC-248	ジェンダーの社会学	講義	2	2・3・4	○		学部と学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、ジェンダー学の視点を学び、私たちが日常生活の中で出会う「男らしさ」や「女らしさ」とは何かについて考えます。具体的には、家事・育児などの無償労働、学校や職場での性別による役割分担、教育の男女格差、セクシャルハラスメントなどの問題を深く理解することを目指します。また女性の政治参加や男女平等社会を実現しようとする運動について学びます。	(1) 多様かつ調和のとれたジェンダーの視点をもって性別にまつわる「当たり前」や日常生活でよく出会う「男らしさ/女らしさ」を批判的に考えることができる。 (2) 幅広い視点からのジェンダーの考察を通して、ニュースなどで扱われる社会問題を理解できる。 (3) 現代社会に不可欠な素養として、自分の周りのジェンダーの問題について気づき、考えることができる。	◎	●			
	SOC-251	地域安全論	講義	2	2・3・4	○		この授業は、犯罪予防の観点から社会安全のための政策について考えるものである。具体的には、社会安全政策の中でも地域社会レベルで犯罪予防活動を実施する上での理論的根拠として有用と思われる犯罪機会論について説明した上で、犯罪予防活動の実践についてみていきたいと思う。また犯罪予防活動に関するビデオ鑑賞も行いたいと思う。なおこの授業は、カリキュラム・ポリシー上、社会の安全・安心に係る分野に位置づけられる。またこの授業は、総合政策学部開講科目「社会安全政策」との合同開講となる。	(1) 犯罪機会論について理解し、従来の犯罪予防論との違いについて説明できるようになること。 (2) 我が国における地域社会レベルにおける犯罪予防の実践の概要について把握できるようになること。 (3) 授業全体を通じて自分たちでも実践可能な犯罪予防策としてどのようなものがあるのかを考えることができるようになること。	●	◎			
	SOW-221	福祉行政と福祉計画	講義	2	2・3	○		福祉行政における財政状況や社会福祉制度・施策の実施に携わる福祉関係機関の役割、地域共生社会の構築に關し一翼を担う福祉計画の意義について学び、理解する。	(1) 福祉行政の歴史的展開、福祉行政に関する国・自治体の役割と関係、福祉行政の組織、団体及び専門職の役割について理解できる。 (2) 国及び地方の福祉財政の実際について理解できる。 (3) 福祉計画の意義、目的、主体、種類、福祉計画の策定過程、評価方法等について理解できる。	●	◎			
	SOW-222	就労支援サービス	講義	1	2・3	○		① 相談援助活動において必要となる各種の就労支援制度を説明する。 ② 就労支援にかかわる組織、団体、専門職について説明する。 ③ 就労支援の各分野の特徴や連携について説明する。 ④ 「人が働くことの意味」を考える契機とする。 なお、この授業は、現代社会学科のカリキュラム・ポリシーである、「学科専門科目の基礎的知識の理解」を図ることを目的とするものである。	(1) 雇用・就労の動向と労働政策の基本について理解できる。 (2) 就労支援にかかわる基本的用語や概念について理解できる。 (3) 就労支援にかかわる専門機関や関係職種の役割を説明できる。 (4) 就労支援について、課題の背景と将来的な課題について、自分の考え方を表現できる。	●	◎			
	SOW-223	更生保護制度	講義	1	2・3	○		本科目は、社会福祉士国家試験科目「更生保護制度」に関する科目です。「更生保護」は、非行や犯罪をした人の再犯防止と立ち直りの指導・支援に関わる分野であり、近年、社会福祉、医療、労働等の分野との協働による指導・支援も活発化しています。本科目では、カリキュラム・ポリシーに基づき、社会の安全・安心と個人の地域社会への再統合や回復支援という社会的課題を支える実務の基礎知識を初学者にも分かりやすい形で学びます。	(1) 刑事司法制度における福祉的措置の機能や役割が理解できる。 (2) 更生保護制度やそれを支える機関や人々の概要等の全体像を把握し、社会福祉士試験に向けた学習課題を理解できる。 (3) 関連領域との連携・協働による施策動向等を理解し、再犯防止や共生社会推進に向けた実務の意義や今後の課題を考察できる。	●	◎			
	SOW-243	相談援助演習 II	演習	4	3	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーである「社会や地域との関わりを重視し、現代社会や福祉を総合的にとらえる」ため、事例等の教材を活用して、相談援助場面における社会福祉援助技術の活用方法を体験的に学ぶ。現時点で習得している社会福祉援助技術を試行(実践)し、スーパービジョンを活用することによって、専門性の習得度について自己覚知をすることや、実習の振り返り、地域におけるソーシャルワークの展開について実践的な演習方法(グループワーク、ロールプレイ)で学ぶ。	(1) 相談援助業務を具体的に理解し、利用者や家族を個別化して理解し、社会福祉専門職の価値に則って、社会資源を活用し、多職種連携をして、社会福祉援助技術(ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク)を試行することができる。 (2) 実習での経験と、理論・制度等の知識と関連付けることができる。 (3) ソーシャルワークの各アプローチについて具体的に説明することができる。 (4) 地域におけるソーシャルワークの展開について説明できる。	◎	●			
	SOW-344	相談援助演習 III	演習	2	4	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーにある「実証的な研究方法の修得や社会や地域との関わりを重視し、現代社会や福祉を総合的に捉えることのできる能力」を涵養するため、相談援助に関わる他の科目との関連性、実習での経験を視野に入れながら、社会福祉士に求められる相談援助のための知識と技術について、段階的に学ぶ。この授業は最終学年における演習科目となるため、地域におけるソーシャルワークの展開、各領域の特性を考慮したソーシャルワークについて、実践的な演習方法(グループワーク、ロールプレイ)で学ぶ。	(1) 地域におけるソーシャルワークの展開について説明できる。 (2) 各領域におけるソーシャルワークについて、活用可能な制度・社会資源及び利用者の特性に応じた支援プロセスについて説明できる。	◎	●			
	SOW-342	社会福祉援助技術演習 IV	演習	2	3	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーにある「実証的な研究方法の修得や社会や地域との関わりを重視し、現代社会や福祉を総合的に捉えることのできる能力」を涵養するため、相談援助に関わる他の科目との関連性、実習での経験を視野に入れながら、社会福祉士に求められる相談援助のための知識と技術について、段階的に学ぶ。この授業では実習での経験についての振り返りとともに、ソーシャルワークにおける各アプローチ、地域におけるソーシャルワークの展開について、実践的な演習方法(グループワーク、ロールプレイ)で学ぶ。	(1) 現代社会学科のディプロマ・ポリシーである「同時代の問題に主体的に取り組み福祉社会を創造することができる」ようになるため、以下を到達目標とする。 (2) 実習での経験と、理論・制度等の知識と関連付けることができる。 (3) ソーシャルワークの各アプローチについて具体的に説明することができる。 (4) 地域におけるソーシャルワークの展開について説明できる。	◎	●			

常盤大学人間科学部 現代社会学科 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1.様々な社会についての歴史的・文化的な理解が深まり、異文化や「他者」への想像力を伴った、21世紀に生きる人間に求められる相対的なものの見方を身につけている。また、関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについての認識を深めることができる。(知識・理解)	2.現代社会の諸現象と変化を捉えるための情報的・確信的に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる。(思考・判断)	3.現代社会の諸問題への関心を深め、それらに取組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身につけている。(態度)	4.現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考案することができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)	<SDGsの17のゴールとの関連> 概論:SDGsの概念や考え方を学ぶ ①:貧困をなくそう ②:飢餓をゼロに ③:すべての人に健康と福祉を ④:質の高い教育をみんなに ⑤:ジェンダー平等を実現しよう ⑥:安全な水とトイレを世界中に ⑦:エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧:働きがいも経済成長も ⑨:産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩:人や国の不平等をなくそう ⑪:住み続けられるまちづくりを ⑫:つくる責任つかう責任 ⑬:気候変動に具体的な対策を ⑭:海の豊かさを守ろう ⑮:陸の豊かさを守ろう ⑯:平和と公正をすべての人に ⑰:パートナーシップで目標を達成しよう
	SOW-343	社会福祉援助技術演習V	演習	2	4	○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーにある「実証的な研究方法の修得や社会や地域との関わりを重視し、現代社会や福祉を総合的に捉えることのできる能力」を涵養するため、相談援助に関わる他の科目との関連性、実習での経験を視野に入れながら、社会福祉士に求められる相談援助のための知識と技術について、段階的に学ぶ。この授業は最終学年における演習科目となるため、地域におけるソーシャルワークの展開、各領域の特性を考慮したソーシャルワークについて、実践的な演習方法(グループワーク、ロールプレイ)で学ぶ。	(1) 地域におけるソーシャルワークの展開について説明できる。 (2) 各領域におけるソーシャルワークについて、活用可能な制度・社会資源及び利用者の特性に応じた支援プロセスについて説明できる。	◎			●		
	SOW-321	社会福祉実習指導 I	演習	4	3	○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーにある「実証的な研究方法の修得や社会や地域との関わりを重視し、現代社会や福祉を総合的に捉えることのできる能力」を涵養するため、社会福祉実習を履修するに先立って行う事前学習として、実習に必要な知識・技術等を段階的に学ぶ。講義、視聴覚機器の使用、個別指導、グループワーク等の方法を組み合わせた指導方法をとる。必要に応じて、外部講師の招聘等も適宜行う。なお、1週2コマで展開する授業となる。	(1) 社会福祉実習に行くための基本的な知識・価値・倫理を身につけている。 (2) 職場実習・職種実習・ソーシャルワーク実習を組み込んだ実習計画書の作成などを通じて、主体的な学びの姿勢・態度を身につけている。 (3) 社会福祉施設等で実習することの意味を言語化できる。	◎			●		
	SOW-341	相談援助実習指導	実習	3	3	○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーにある「実証的な研究方法の修得や社会や地域との関わりを重視し、現代社会や福祉を総合的に捉えることのできる能力」を涵養するため、社会福祉実習を履修するに先立って行う事前学習として、実習に必要な知識・技術等を段階的に学ぶ。講義、視聴覚機器の使用、個別指導、グループワーク等の方法を組み合わせた指導方法をとる。必要に応じて、外部講師の招聘等も適宜行う。なお、1週2コマで展開する授業となる。	(1) 社会福祉実習に行くための基本的な知識・価値・倫理を身につけている。 (2) 職場実習・職種実習・ソーシャルワーク実習を組み込んだ実習計画書の作成などを通じて、主体的な学びの姿勢・態度を身につけている。 (3) 社会福祉施設等で実習することの意味を言語化できる。	◎			●		
	SOW-322	社会福祉実習指導 II	演習	4	3	○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーにある「実証的な研究方法の修得や社会や地域との関わりを重視し、現代社会や福祉を総合的に捉えることのできる能力」を涵養するため、社会福祉実習の体験を総括する事後学習として、段階的に学ぶ。この授業では講義、視聴覚機器の使用のほか、個別指導、個人の体験を他者に伝えたり、伝えられたりする関係のなかでのグループワーク等の方法を組み合わせた指導方法をとる。なお、1週2コマで展開する授業となる。	(1) 実習の振り返り体験を言語化できる。 (2) 社会福祉専門職としての自己について言語化できる。 (3) 実習前の学び、実習からの学び、実習振り返りによる学びの3つの局面を有機的・包括的に結びつけることができる。	◎			●		
	SOW-323	社会福祉実習	実習	4	3	○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーにある「実証的な研究方法の修得や社会や地域との関わりを重視し、現代社会や福祉を総合的に捉えることのできる能力」を涵養し、社会福祉士の国家試験受験資格を得るために、法令で定められた社会福祉の現場で180時間以上の社会福祉実習(相談援助実習)を行う。そして、実習指導者や教員からの指導を受けることにより、学びを深化させる。	(1) 大学での学び(講義、演習)を社会福祉の現場で確認し、「理論」と「実践」とを結びつけることができる。 (2) ソーシャルワーカーとしての社会福祉士の業務を理解することができる。 (3) 社会福祉専門職としての自己覚知を深めることができる。	◎	○		●		
	SOW-342	相談援助実習	演習	4	3	○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーにある「実証的な研究方法の修得や社会や地域との関わりを重視し、現代社会や福祉を総合的に捉えることのできる能力」を涵養し、社会福祉士の国家試験受験資格を得るために、法令で定められた社会福祉の現場で180時間以上の社会福祉実習(相談援助実習)を行う。そして、実習指導者や教員からの指導を受けることにより、学びを深化させる。	(1) 大学での学び(講義、演習)を社会福祉の現場で確認し、「理論」と「実践」とを結びつけることができる。 (2) ソーシャルワーカーとしての社会福祉士の業務を理解することができる。 (3) 社会福祉専門職としての自己覚知を深めることができる。	◎	○		●		
	SOC-331	社会調査実習(フィールドワーク)	実習	☆6	3	○	カリキュラム・ポリシーに基づき、「学科専門科目の基礎的理解に加え、問題の解決に取り組む実践力を身に付けるために」、この授業は1、2年次に学習した社会調査法や社会調査法演習などの知識を総動員して行なわれる。受講生全員でひとつの大きなテーマの下に調査研究を企画し、実施し、調査報告書を作成する。この過程は、学問的な問いを自分で出し、社会学の方法を実際に用いながら、その出した問いへの答えを出すというものである。	(1) 調査を自分で企画し、実施することができるようになる。 (2) 学外の人と、円滑なコミュニケーションをとることができるようになる。 (3) 自分の得た知識を的確な表現を用いて、文章にまとめることができるようになる。	◎			●		
	SOC-331	社会調査実習 I	実習	☆2	3	○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、「学科専門科目の基礎的理解に加え、問題の解決に取り組む実践力を身に付けるために」、この授業は1、2年次に学習した社会調査法や社会調査法演習などの知識を総動員して行なわれる。受講生全員でひとつの大きなテーマの下に調査研究を企画する。この過程は、学問的な問いを自分で出し、社会学の方法を実際に用いながら、その出した問いへの答えを出すというものである。	(1) 調査を自分で企画することができるようになる。 (2) 学外の人と、円滑なコミュニケーションをとることができるようになる。 (3) 自分の得た知識を的確な表現を用いて、文章にまとめることができるようになる。	◎			●		
	SOC-332	社会調査実習 II	実習	☆2	3	○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、「学科専門科目の基礎的理解に加え、問題の解決に取り組む実践力を身に付けるために」、この授業は1、2年次に学習した社会調査法や社会調査法演習などの知識を総動員して行なわれる。受講生全員でひとつの大きなテーマの下に調査研究をし、報告書を作成する。この過程は、学問的な問いを自分で出し、社会学の方法を実際に用いながら、その出した問いへの答えを出すというものである。	(1) 調査を自分で企画し、実施結果を報告することができるようになる。 (2) 学外の人と、円滑なコミュニケーションをとることができるようになる。 (3) 自分の得た知識を的確な表現を用いて、文章にまとめることができるようになる。	◎			●		
	SOC-333	社会調査実習 III	実習	2	3	○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、「学科専門科目の基礎的理解に加え、問題の解決に取り組む実践力を身に付けるために」、この授業は1、2年次に学習した社会調査法や社会調査法演習などの知識を総動員して行なわれる。受講生全員でひとつの大きなテーマの下に調査研究を実施する。この過程は、学問的な問いを自分で出し、社会学の方法を実際に用いながら、その出した問いへの答えを出すというものである。	(1) 調査を自分で実施することができるようになる。 (2) 学外の人と、円滑なコミュニケーションをとることができるようになる。 (3) 自分の得た知識を的確な表現を用いて、文章にまとめることができるようになる。	◎			●		
	SOC-336	スポーツ社会学演習 I	演習	☆2	3	○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき現代社会を理解するための方法論として、「情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる」能力を修得するため、また、実証的な教育を通して、「現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考案することができる」能力を涵養する。スポーツは社会における位置・意味づけが初めて初めて成立する。この授業では、スポーツとは何か?を社会学の立場から捉えると同時に、スポーツの社会的役割について検討することを通して、社会学の考え方を学んでいく。具体的には、「大学スポーツの振興施策の検討」「地域スポーツの現況と課題」「運動部活動の変容と課題」の各点からスポーツと社会に関わるテーマを設定し、社会調査の手法を用いながら学修していく。	(1)「社会調査法1」「社会調査法2」「社会調査法演習」「量的データの扱い方」「質的データの扱い方」「社会統計学」等で学んだ社会調査に関する事柄を再学修し、確実な知識として身に付ける。 (2)学修成果を発表するための基礎的技術・知識・素養を身に付ける。 (3)学内外での他者・組織・機関との関わりを通して、調整力および協働力を身に付ける。 (4)これまで学修してきた「地域社会学」「スポーツ社会学」および「スポーツ人類学」などの応用社会学の学習を実地で学び直すことによって、より確かな専門的知識として身に付ける。	◎			●		
	SOC-337	スポーツ社会学演習 II	演習	☆2	3	○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき現代社会を理解するための方法論として、「情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる」能力を修得するため、また、実証的な教育を通して、「現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考案することができる」能力を涵養する。スポーツは社会における位置・意味づけが初めて初めて成立する。この授業では、スポーツとは何か?を社会学の立場から捉えると同時に、スポーツの社会的役割について検討することを通して、社会学の考え方を学んでいく。具体的には、「大学スポーツの振興施策の検討」「地域スポーツの現況と課題」「運動部活動の変容と課題」の各点からスポーツと社会に関わるテーマを設定し、社会調査の手法を用いながら学修していく。	(1)「社会調査法1」「社会調査法2」「社会調査法演習」「量的データの扱い方」「質的データの扱い方」「社会統計学」等で学んだ社会調査に関する事柄を再学修し、確実な知識として身に付ける。 (2)学修成果を発表するための基礎的技術・知識・素養を身に付ける。 (3)学内外での他者・組織・機関との関わりを通して、調整力および協働力を身に付ける。 (4)これまで学修してきた「地域社会学」「スポーツ社会学」および「スポーツ人類学」などの応用社会学の学習を実地で学び直すことによって、より確かな専門的知識として身に付ける。	◎			●		

常盤大学人間科学部 現代社会学科 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)				<SDGsの17のゴールとの関連> 概論:SDGsの概念や考え方を学ぶ ①: 貧困をなくそう ②: 飢餓をゼロに ③: すべての人に健康と福祉を ④: 質の高い教育をみんなに ⑤: ジェンダー平等を実現しよう ⑥: 安全な水とトイレを世界中に ⑦: エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧: 働きがいも経済成長も ⑨: 産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩: 人や国の不平等をなくそう ⑪: 住み続けられるまちづくりを ⑫: つくる責任つかう責任 ⑬: 気候変動に具体的な対策を ⑭: 海の豊かさを守ろう ⑮: 陸の豊かさを守ろう ⑯: 平和と公正をすべての人に ⑰: パートナリシップで目標を達成しよう
										1.様々な社会について	2.現代社会の諸問題への関心を深める	3.現代社会の諸問題への関心を深める	4.現代社会の諸問題への関心を深める	
	SOC-338	スポーツ社会学演習Ⅲ	演習	2	3	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき現代社会を理解するための方法論として、「情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる」能力を修得するため、また、実証的な教育を通して、「現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考えることができる」能力を涵養する。スポーツは社会における位置・意味づけが初めて成立する。この授業では、スポーツとは何か?を社会学の立場から捉え、同時に、スポーツの社会的役割について検討することを通して、社会学の考え方を学んでいく。具体的には、「大学スポーツの振興施策の検討」「地域スポーツの現況と課題」「運動部活動の変容と課題」の各点からスポーツと社会に関わるテーマを設定し、社会調査の手法を用いながら学修していく。	(1)「社会調査法1」「社会調査法2」「社会調査法演習」「量的データの扱い方」「質的データの扱い方」「社会統計学」等で学んだ社会調査に関する事柄を再学修し、確実な知識として身に付ける。 (2)学修成果を発表するための基礎的技術・知識・素養を身に付ける。 (3)学内外での他者・組織・機関との関わりを通して、調整力および協働力を身に付ける。 (4)これまで学修してきた「地域社会学」「スポーツ社会学」および「スポーツ人類学」などの応用社会学の学習を実地で学び直すことによって、より確かな専門的知識として身に付ける。		◎	●		
	SOC-341	社会階層論	講義	2	3	○		カリキュラム・ポリシーに基づき、「現代社会に関する専門的知識を体系的に学ぶために」、「社会階層論」においては社会階層論の基礎的な視点を確認しながら、現代社会に存在する様々な不平等な側面について、社会学の観点から把握することを目指す。	(1)社会階層論の基礎的概念を理解できるようになる。 (2)社会階層論の観点から社会現象を理解できるようになる。 (3)現代社会の様々な課題を自ら発見するための能力を身につけられるようになる。			●	◎	
	SOW-111	社会理論と社会システム	講義	2	2	○		人間は社会的動物と言われるように、他者および社会と関わることなく生きていくことはできない。そのため、人間と関わるヒューマンサービスを提供するためには、「社会」を理解し、個人がいかに社会的な存在であるかを理解することはきわめて重要である。この講義では社会学の思考力を身につけることによって、論理的かつ柔軟に社会をみる視点を形成するとともに、社会福祉士をはじめとした福祉専門職・ヒューマンサービス職に就くための基礎的教養を獲得することを目的とした。	この講義では、「社会福祉士養成施設等における授業科目の目標及び内容並びに介護福祉士養成施設等における授業科目の目標及び内容について」(厚生省社会局長通知)に準拠し、 (1)福祉専門職に必須である社会学の基本的な考え方、知識を学ぶ。 (2)現代社会の持つ諸側面について、その特徴と問題とを合わせて理解し、現代社会の多様性、多様な価値観への理解を深めることを目標とした。を「変化-社会変動」という視点から捉えることによって、現代社会への理解を深めることを目的とした。	●			◎	
	SOW-231	相談援助の理論と方法Ⅰ	講義	2	2	○		「相談援助の理論と方法Ⅰ」の履修では、これまでの講義で得た知識をもとに、相談援助実践の過程を体系的かつ実践的に学ぶ。具体的には、相談援助のインターク、アセスメント、プランニングとそれに基づく実施、評価、終結といった展開を学ぶ	(1)対人援助の開始から終結までのプロセスを理解することができる。 (2)対人援助実践におけるアセスメントの重要性を理解することができる。 (3)対人援助にかかわる記録の重要性と記録の仕方を理解することができる。 (4)対人援助にかかわる実践の蓄積の意義を理解することができる。	●			◎	
	SOW-232	相談援助の理論と方法Ⅱ	講義	2	2	○		「相談援助の理論と方法Ⅱ」の履修によって、対人援助の主要な理論を取り上げながら、援助者(利用者)のそれぞれの状況と、両者を取り巻く環境の捉え方を学ぶ。そして、援助者が持つべき専門性と、その専門性を発揮して問題解決を図る援助実践のための基礎的知識を学ぶ。	(1)対人援助の専門職である社会福祉士に求められる相談援助の基本的な理解ができる。 (2)「社会福祉士国家試験受験資格」を得るに必要な基本的知識を得ることができる。	●			◎	
	SOW-314	社会福祉運営管理論	講義	2	3		福祉サービスの組織と経営	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーである「社会や地域との関わりを重視し、現代社会や福祉を総合的にとらえる」ため、社会福祉サービスの主な提供組織の機能と役割、組織管理の理論と実際について総合的に学ぶ。授業を通して、社会福祉専門職として必要とされる経営管理の知識とスキルを身につける。	(1)福祉サービスの提供組織や団体にかかる制度や内容を理解できるようにする。 (2)福祉サービスの組織と人材育成について理解できるようにする。 (3)福祉サービスの財務会計の基本と情報管理について理解できるようにする。	●			◎	
	SOW-126	低所得者に対する支援と生活保護制度	講義	2	2	○		この科目は社会福祉士指定科目であり、公的扶助の専門的な知識、技術、価値観を定着させることが目指される。現代社会学科のカリキュラム・ポリシーである「社会や地域との関わりを重視し、現代社会や福祉を総合的にとらえる」ため、貧困、低所得にある人々への理解と、その支援のための生活保護制度や生活困窮者自立支援諸制度の理解を深め、低所得者への個別支援の方法を学ぶ。	(1)貧困の概念や原因、貧困・低所得層の人々が直面している課題を理解する。そして、生活保護など公的扶助制度の仕組みや機能を理解する。さらに制度や社会資源を活用し、他職種連携・ネットワークにより所得者の課題解決を支援する技術を理解する。	●			◎	
	SOW-127	保健医療サービス	講義	2	1			地域住民の生活問題や生活課題の解決に向けて、地域を基盤に保健医療サービスの向上を図ることはわが国にとって最も重要な政策課題の一つである。講義を通して、今日の社会保障制度や保健医療福祉サービスの変遷や概要について学び、社会福祉専門職の役割と実際についての理解を深める。 カリキュラム・ポリシーとして、本科目で「現代社会や福祉に関する専門的知識および応用的知識を体系的に学ぶ」ことを通じて、「学科専門科目の基礎的知識の理解」を図ることとする。	(1)今日の社会保障制度や保健医療サービスの変遷や概要について説明できる。 (2)保健医療サービスにおける専門職の機能・役割を説明できる。 (3)保健医療サービス関係者や地域の社会資源との連携を説明できる。 (4)保健医療サービスにおける社会福祉専門職の専門性について考えを述べられる。	●	◎			
	SOW-224	権利擁護と成年後見制度	講義	2	2	○		この講義のテーマとなる成年後見制度は、判断能力の点において援助を必要としている人たちのための制度である。広く国家との関連も視野に入れながら人権擁護の観点からこの問題を理解する必要がある。最初に法学の基本的知識(憲法、行政法、民法)を理解した上で、具体的な制度や活動の実態などを学んでいく。 知識の修得という側面だけでなく、現代社会学科のカリキュラム・ポリシーを反映し、実証的な研究方法の修得や社会との関わりを重視し、現代社会や福祉を総合的に捉えることのできる能力の涵養を目指した授業を心掛ける。	(1)社会福祉士国家試験の試験範囲である「権利擁護と成年後見制度」について体系的に理解できる。 (2)制度理解に必要な法学の基本知識を身に付けることができる。 (3)問題演習を通じて国家試験合格に向けた能力を身につけることができる。 (4)人間関係学部のディプロマ・ポリシーである人間に関わる諸問題、とりわけ、心理や行動の発達、教育、社会や福祉、コミュニケーション、健康と栄養に関わる諸問題を発見し、批判的に考え、多面的な思考と分析によつて的確な判断を下すことができる。	●			◎	